

ぶらり 諏訪塾 ⑧ 渡る期間は藩主の命

旧橋原村のびったら橋(岡谷市川岸)

釜口水門から天竜川の左岸を少し下ると、平成2年岡谷市教育委員会建立の「右 西街道」と刻まれた遺構が三叉路の分岐点に建っている。西街道は花岡城裏手を抜く、小坂観音院、諏訪大社そして茅野市安国寺方面へと続く。

遺構から更に下ると青く塗られた橋が見えてくる。その横に見慣れぬ形状の大石が厩まきされている一角がある。これは江戸時代、天竜川を渡るために作られた「びったら橋の橋石」である。

石の上部を凹型に加工し10個ほど川の中に並べ板を乗せ、対岸まで繋いだ簡素な橋で、増水時に板が流されぬよう橋台の石に穴をあけ板の片方と縄で止めている。板の幅は一尺一寸というから36きほ

ど。万が一板がはずれ流されても板を戻せば通行可能になったという優れモノだ。

板は水面すれすれで幅が狭く板の上を歩く度に大きく揺れ「びたびた」と音を立てた事から「びったら橋」と呼ぶようになったと伝える。びったら橋は諏訪藩主より減水期の冬春だけ利用が許され、増水期の夏秋は船で川を渡ったという。

弘化2(1845)年に初めて32間(約57・6m)の橋が掛けられたと「旧蹟年代記」に見え、その後びったら橋は姿を消した。また現在の釜口橋もびったら橋であったというから驚く。

青い橋原橋のもとにあるびったら橋の遺構は対岸と日常的に往



江戸時代、天竜川を渡るために作られた「びったら橋の橋石」



来したいと願う先人たちの生活を語る生き証人と言えるのではないだろうか。

＝ 随時掲載

詳しい場所などの問い合わせは
諏訪塾事務局(電話070・8333・2107)へ。

ぶらり 諏訪塾の冊子は

- ・ 諏訪市観光案内所
(JR上諏訪駅内)
- ・ れすたらん割烹いずみ屋
(諏訪市諏訪)
- ・ 書店「三書堂」
(諏訪市末広)
- ・ すわ大書情報センター
(諏訪市博物館内)
- ・ 諏訪書店(通販のみ)
57・0997)
- ・ 柏屋カフエ&ギャラリー
(諏訪市中洲神宮寺)
で販売中です。

今回の筆者

涌井みち子さん

立川流建築彫刻研究者でスポーツインストラクターとしても活動しています

